

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 9 月 19 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200320		
法人名	メディカルサービス廿日市		
事業所名	グループホーム南観音ひまわり		
所在地	広島市西区南観音6丁目3-31 (電話) 082-295-3717		
自己評価作成日	平成25年4月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200320-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年9月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

交通の利便性がよく、平地に建てられたグループホームである。散歩、買物も行きやすく、便利でありながら、比較的静かな環境の中に建てられたグループホームである。母体は医療法人であり、入居者の方の体調管理など連携を取りながら行っている。入居前の生活をイメージして、グループホームに入居しても継続できる事は、出来る限り続けて頂けるように支援している。外部との繋がりを重視し、入居者の方と共に挨拶まわりを行い、近隣の保育園、小学校との交流も実現した。地域行事への参加や外出の機会を積極的に作っている。また、ご家族様には毎月お手紙と、面会時にはカルテに目を通して頂き、何かあればその都度連絡を行いながら、入居者様と一緒に支える体制づくりを行っている。グループホームの行事ではご家族様、入居者様に相談しながら計画し、季節の行事を大切に考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

リビングなどのコーナーや柱、調度品には丸みが施され、テーブルと椅子は足が床につくように高さが調整されている。日常生活に対する安全が十分に配慮され、木の温もりと清潔感あふれる事業所である。おやつ時間に、職員も一緒に座り話をしている姿がみられ、時間がゆったり流れている雰囲気がある。職員一人ひとり、手を出しすぎない見守りを大切に、希望・感動・感謝のケア目標の実践に取り組んでいる。毎月、利用者と一緒に、火災を想定した夜間、日勤帯を想定した避難訓練を実施している。確実に避難をするために、あらゆる災害を想定した訓練も検討中で、職員の防災意識は非常に高い。地域との交流も、事業所から幼稚園へ出向いて、音楽観賞会への参加が実現したり、ねぎっこ通信を地域へ回覧し、事業所の取り組みを広く知ってもらうように努めている。少しずつ、地域住民とのつながりが深まり、生活の幅が広がってきている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をわかりやすくしたケア目標を作成し、毎朝唱和している。また理念がなぜ必要なのかを理解することも大切だと考え職員指導をしている。	職員全員で話し合い、一年間を振り返り、今年度は、希望・感動・感謝のケア目標を作成し、日々のサービスに取り組んでいる。理念と介護基本姿勢10項目も唱和し、職員全体で共有を図り実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月の公民館での歌会に参加している。幼稚園、小学校にあいさつ回りし交流会につなげている。	毎月の歌会、敬老会、祭りなど地域の行事へ積極的に参加している。2年かけての声掛けで、幼稚園での音楽会観賞会へ利用者の参加が実現した。小学生の通学路となっているので、行きかえりのあいさつをかわしたり、ボランティアの訪問など、少しずつ地域との交流を深めていっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症ケアの専門職として地域行事を通じて、認知症の理解や支援方法を伝えている。また、実習生やボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催している。ご家族の方、町内会長、近隣介護施設などの職員の参加をお願いしている。家族会等の行事の際は内容について報告し、意見要望を反映させている。	家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、近隣の施設職員など参加され、事業所活動や事故報告などの運営状況を報告している。活発に意見交換され、参加者からの意見、要望は、職員間で周知し、サービス向上に活かしている。議事録は毎回、家族に郵送し、情報の共有を図っている。	今後は、特定の家族の参加だけでなく、曜日、時間の参加しやすい条件を聞き、できるだけ多くの家族が参加され、より率直な意見が出せる環境をつくる工夫を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市の主催する研修へ積極的に参加している。行政の動向で分からない事は問い合わせ、理解に努めている。	毎回、運営推進会議へ、地域包括支援センター職員は参加され、情報交換や共有が図られている。区職員は1年に1回は参加され、必要に応じて課長が中心となって取組みを積極的に伝えながら協力関係を築いている。市からは、研修の講師の協力依頼もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	関連法人グループにて年に2回身体拘束に関する研修を行っている。帰宅の訴えや外出の希望がある場合は、極力制止せずにつき添い、安全面、精神面に配慮している。特定の入居者の方に対しては、定期の所在確認表を記入している。	玄関には、チャイムと勝手にセンサーを設置し、自由に出入りできるよう見守りを行っている。家族と話し合い理解を得て、センサーマットを使用し、夜間のトイレなど転倒予防に努めている。年に2回身体拘束に関する研修を行い、周知徹底している。言葉遣いなど、その都度注意し、会議などで話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	関連法人グループにて年に2回虐待に関する研修を行っている。入浴時には全身の観察を行い注意している。入居者の方へは、目上の方に対する言葉遣いを心掛け、虐待にあたる行為を意識しながら関わっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	関連法人グループにて年に2回権利擁護に関する研修を行い職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者より説明し、不明な点の有無を確認するようにしている。リスクマネジメント、苦情・要望については対応方法を文章で説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設入口に御意見箱を設置している。話しやすい雰囲気作りを心掛け、意見や要望があれば書面で書き出しなぜそうなったのか全体カンファレンスやサービス向上委員会で話し合い再発防止に努めている。	面会時、家族会、運営推進会議など、話しやすい環境づくりを心掛け、家族の意見、要望を聞くように努めている。家族からの苦情は、苦情記録に記載し、苦情対応については、職員間で話し合い、対応策を周知させている。今後は、より具体的な意見が出やすくするためにも、アンケートの実施を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度全体カンファレンスを行っている。欠席者は書類参加にて意見を出してもらい全員が参加出来るように工夫している。カンファレンスの内容は迅速に書類にし、閲覧している。	各ユニットごと、テーマに合わせて、不定期にカンファレンスを実施している。月1回の全体カンファレンスでは、書類参加も含め、必ず職員一人ひとりの意見を聞いている。職員が自由に意見を言える環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回人事考課を設け、個別目標を立て面接を行っている。職員同士の人間関係、個別に持つ問題の有無を把握できるように配慮されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内外の研修報告書を職員が閲覧できるようにし、研修で得た情報は現場で生かすように促している。施設内研修に参加出来ない場合はDVDで対応し、必ず全員で確認するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修の機会を増やし、同業者と交流を計りながら良い情報は積極的に取り入れるように努力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者の生活状況などご家族様に確認し、ご本人が求めている事を理解しようと努めている。サービス利用開始の不安を考え、開始時は特に連絡を小まめにするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時、入居者の生活を確認し、GHでの生活像をイメージして頂きながら本人と共に支える関係作りをめざしている。ご家族様に安心して頂けるように小まめに連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族様の希望している事を知る為にも連絡、報告を小まめに行い、想いを理解し、可能な限り対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活上のお手伝いを行うだけでなく、畑仕事、料理等教わる部分も多く、共に支え合う関係を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の公民館での歌会に参加している。幼稚園、小学校にあいさつ回りし交流会につなげている。行事や出来事を手紙にしご家族様に送っている。又面会時には日々の様子をお伝えし、介護記録も呼んで頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人との面会のご家族様の許可があれば自由にして頂いている。馴染みの場所へは外出時に行けるように計画している。	知人への電話や友達に会いに出かけたり、家族の協力で墓参り、自宅に立ち寄りなど、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。事業所で仲良くなった利用者が、1階と2階を行き来したりすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の関係に配慮し、外出、リビングでの座席の配置に気をつけている。職員は情報を共有するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後は本人・家族の意向をお聞きし、法人全体でのバックアップを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族様の希望している事を知る為にも連絡、報告を小まめに行い、想いを理解し、可能な限り対応するように努めている。	職員を担当制にし、日々の寄り添いや入浴など1対1になるときに、ゆっくりと話をしながら、一人ひとりの思いを聞くようにしている。言葉でうまく表現できない利用者であっても、家族からの情報を参考にしたり、日々の表情や行動から本人の意向をくみとるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族様、ケアマネなど本人をよく知る人から情報をもらいGHでの生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	大切なことは記録に残し、職員で把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月ごとの見直しにてご本人様ご家族様の想いを伺っているが、ご家族様のカンファレンスの参加を増やしていく事が課題だと感じている。</p>	<p>利用者や家族の意向を聞き、担当職員の作成した原案をもとに、介護支援専門員や他の職員で話し合い、介護計画を作成している。目標の実施状況は毎日、介護記録確認表に記入している。前回の評価の改善点を踏まえ、介護計画書は、利用者、家族が理解しやすいような言い回しや具体的な表現方法にかえている。</p>	<p>その人らしく暮らし続けるための具体的な取り組みについて、本人、家族に、十分に理解してもらうことが大切です。今まで以上に、しっかりと説明を繰り返し、一緒に、計画をつくりあげ、共有していくためにも、家族にカンファレンスへの参加の呼びかけを続けていく取り組みを期待します。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>実行可能な目標を立て、本人の苦痛にならないように気を配っている。難しいようなら内容を変更したり新たな目標を掲げている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>決まりだけにとらわれず、対応出来る時は、家族と話し合い、臨機応変に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会長様と連絡を密にとりながら、地域行事には積極的に参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>2週間に1度定期受診している。変化ある時はその都度Drに相談し、家族の方にも報告し、状態によって立ち会って頂いている</p>	<p>以前は、希望される医療機関で受診されていたが、今は全員が協力医療機関をかかりつけ医とされ、2週間ごとに受診している。半年ごとには、協力医療機関でCT検査、超音波検査を実施し、家族へ結果を報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調不良や些細な表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んで着る。変化があれば、看護職員に報告し適切な医療につなげている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には本人への支援の方法に関する情報を医療機関に提出し、ご家族様にも情報を頂きながら、退院支援に結び付けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>看取りケアの実績はないが、主治医と連携を図り、可能なケアについて説明をし、本人・家族の意思を確認するようにしている。職員は看取りの研修会に参加している。</p>	<p>看取りのケースは、今のところないが、本人、家族の意向に添い、重度化や終末期に向けた対応を行う方針である。看取りの研修をとおして、職員の意識統一を図っている。本人、家族などには、入居時に、事業所としてできるケアについては説明し、了解を得ている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変などに対応したマニュアルがあり、常に職員が見れるようにしている。応急手当などの訓練は行っていない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>毎月、夜間帯、日勤帯を想定した避難訓練を入居者様と共に行っている。年に1度は消防署、ご家族様立ち合いの避難訓練を行っている。</p>	<p>毎月、火災を想定した夜間帯、日勤帯を想定した避難訓練を実施しているが、職員から、地震、水害の災害など、あらゆる災害を想定した訓練も実施したほうがいいのではという、声のでて検討中である。近隣の方は高齢のため協力は難しいが、町内会とは協力体制が出来ている。</p>	<p>3日分、備蓄されているが、賞味期限が切れ、廃棄されたこともある。訓練日に合わせて、備蓄を使用するの献立をたてるなどの工夫を期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	援助が必要な時は本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けている。自己決定しやすい言葉がけをするように努めている。	職員は、誇りやプライバシーを損ねない対応をコミュニケーションの研修で十分理解している。特に、排泄時・入浴時・居室への入室時の言葉づかいや態度に気をつけて、ケアに取り組んでいる。居室に夜間は鍵をかけられる利用者もみえるが、プライバシーが保てるように、一人ひとりの意向を尊重した対応が心掛けられている。書類の管理も徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員で決めた事を押しつけないように、複数の選択肢を提案して一人ひとりの入居者が自己決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れをそれぞれ持っておられる。一人一人の体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重して、出来る限り個別の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好みや好きな色をお聞きし、外出時には特におしゃれが出来るようにしている。毎日に日課でお化粧のお手伝いも行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑で採れた野菜と一緒に調理し、盛り付けなど出来る事、得意な事を行って頂き、職員と入居者様と同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう雰囲気も大切にしている。	畑で育てた野菜が日々の食卓に上り、出前を取ったり、外食に出掛けたりしている。朝食は希望に合わせて、パンかごはんを選ぶなど、食事を楽しめる支援に取り組んでいる。テーブルと椅子は、高さを低く調整し、姿勢よく食事できるようにされている。利用者のできることは手伝ってもらい、買い物は週2回、利用者と一緒に出掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>体調と一日の食事摂取量を把握している。必要であれば、主治医に補助食品の相談も行い対応している。内容だけでなく食事形態からの影響も考え本人が食べやすい物を検討している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>自分で出来る事は声掛け、見守りを行い、介助が必要な方には毎食後口腔ケアを実施している。口腔ケアの重要性を理解し、嚥下障害による肺炎の防止などに努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、尿意のない方の排尿パターンを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの様子から、排泄習慣を把握し、声掛けや見守りで、自立に向けさり気なくトイレ誘導に努め、トイレでの排泄を大切にケアを行っている。紙パンツから布パンツへと改善されたケースもある。夜間は、睡眠を妨げないように、パットやポータブルトイレを利用者の状況に合わせて使用している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘の方には下剤だけに頼らず、乳製品等提供し、腸の動きがよくなる事を意識し散歩などの運動を取り入れている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>日勤帯のみではあるが、本人のタイミングで入浴して頂いている。本人の好まれる湯温に合わせて、季節を意識してゆず湯、みかん湯など行っている。</p>	<p>10時から16時の時間帯の入浴で、希望に応じて、毎日でも入浴が可能である。ゆず湯だけでなく、利用者の声から、皮を利用してみかん湯を楽しむこともある。家族の協力や対応を変えながら、週1回しか入浴されない利用者には、清拭や足浴で対応し清潔を保っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	リビングには椅子を置き、休息できるようにしている。居室で過ごされる方には可能な限り自分の時間を大切にもらっている。日中の活動を計り、夜間の安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全体が把握できるように一覧表を作り、確認しやすくしている。薬の変更があればその都度更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様一人一人出来る事に違いがあり、想いを違う事を念頭におき、分担して頂きながら家事を行っている。幅のある難易度のレク材を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別にやりたい事、行きたい所をお聞きしながら積極的に外出を計画している。季節に応じた外出も意識している。	事業所周辺に公園があり、天候や体調に合わせて散歩に出かけている。一人ひとりの希望に添って、釣り堀、野球観戦、カラオケ、買い物などに出かけている。季節を肌で感じられるように、日常的に戸外へ出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	貴重品や財布は事務室で管理している。買物などで使用する際は職員の付き添いのもと支払いを行っている。お小遣帳を記載し不定期であるがご家族に確認していただいている。金銭の支払いをご本人様に行って頂くことの大切さを認識している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人様の希望があれば電話でお話ができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者様の過ごしやすいように家具の配置に気を配り、外出時に撮影した写真を飾っている。</p>	<p>木の温もりを感じさせるリビングは、自然な光が入り、清掃も行き届き、居心地よく過ごせる生活空間である。リビングからは、ウッドデッキで利用者が育てている花がながめられる。季節ごとに利用者が作った作品を飾り付けている。テーブルやイスは、足が床につくように高さ調整されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>TVの前にソファを配置しており一人若しくは数人でTVを視聴したり雑誌・新聞を読んでもらっている。興味を引くようなTVプログラム、DVDを準備・提供している。廊下にも椅子を置き談話ができる場所を提供している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>棚・椅子・TV・家族写真等使い慣れた物や近くにあることで安心感につながる物を持参して頂くようご家族にも協力頂いている。</p>	<p>利用者一人ひとりのこれまでの生活環境に近い、居室づくりを心掛けている。本人の使い慣れた家具、ベッド、冷蔵庫、仏壇や写真など好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせ、落ち着ける居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレの場所が分かりやすいように札となる物を入り口につけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念についての勉強会を行い、自分達の言葉で表したケア目標を掲げ、意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩などの外出等で挨拶を心掛けている。交流の場への積極的な参加を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症ケアの専門職として地域行事を通じて、認知症の理解や支援方法を伝えている。また、実習生やボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催している。ご家族の方、町内会長、近隣介護施設などの職員の参加をお願いしている。家族会等の行事の際は内容について報告し、意見要望を反映させている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市の主催する研修へ積極的に参加している。行政の動向で分からない事は問い合わせ、理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>関連法人グループにて年に2回身体拘束に関する研修を行っている。帰宅の訴えや外出の希望がある場合は、極力制止せずに付き添い、安全面、精神面に配慮している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>関連法人グループにて年に2回虐待に関する研修を行っている。入浴時には全身の観察を行い注意している。入居者の方へは、目上の方に対する言葉遣いを心掛け、虐待にあたる行為を意識しながら関わっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>関連法人グループにて年に2回権利擁護に関する研修を行い職員の理解を深めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>管理者より説明し、不明な点の有無を確認するようにしている。リスクマネジメント、苦情・要望については対応方法を文章で説明し、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>施設入口に御意見箱を設置している。話しやすい雰囲気作りを心掛け、意見や要望があれば書面で書き出しなぜそうなったのか全体カンファレンスやサービス向上委員会で話し合い再発防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度全体カンファレンスを行っている。欠席者は書類参加にて意見を出してもらい全員が参加出来るように工夫している。カンファレンスの内容は迅速に書類にし、閲覧している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回人事考課を設け、個別目標を立て面接を行っている。職員同士の人間関係、個別に持つ問題の有無を把握できるように配慮されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内外の研修報告書を職員が閲覧できるようにし、研修で得た情報は現場で生かすように促している。施設内研修に参加出来ない場合はDVDで対応し、必ず全員で確認するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修の機会を増やし、同業者と交流を計りながら良い情報は積極的に取り入れるように努力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者の生活状況など本人の家族に確認し、ご本人が求めている事や不安を理解しようと努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会時、入居者の生活を確認し、GHでの生活像をイメージして頂きながら本人と共に支える関係作りをめざすため得た情報は職員間でも共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険のサービスについての説明を行い家族の希望とGHで支援できる事など話し合いをしっかりと行い、必要であれば本人のCMに報告・相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個人の尊厳を尊重し、信頼関係を築く		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	中立の立場から助言を行い、共に支えあう関係を築き面会時や手紙などで近況を報告を行っている。行事として家族を含めた外食などを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行事など参加して頂き、馴染みの歌を聴いたり、思い出のある場所に出掛けたりし、家族の方々に面会をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う者同士での外出を計画するだけでなく全員でのレクリエーション、行事を行い、利用者様同士の関係作りも考えている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後は本人・家族の意向をお聞きし、法人全体でのバックアップを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人それぞれの希望に添えるように本人・ご家族様の思いをお聞きしたり日々の過ごし方、発言も意識しながら、カンファレンスで共有し、本人・家族と面接を行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時本人・家族・担当CMに情報提供を頂き、サービス利用の把握・確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの過ごし方を把握し、必要な事は記録に残し、職員が共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>個人の改善には必要時カンファを行って共有し、3ヶ月に1回ケアプランを立て本人・家族を含めたケアを行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>本人様の行動、言動、発言を細かく記録し電話又は家族の方に情報をお伝えし、介護計画につなげている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人・家族様より情報収集し、柔軟に支援している</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>以前の人との関わり、繋がりある関係を継続して頂けるよう大切にしている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>2週間に1度定期受診している。変化ある時はその都度Drに相談し、家族の方にも報告し、状態によって立ち会って頂いている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>バイタルの変化や体調不良などがあれば、その都度Nsに報告し、必要時は受診につなげている。訪問看護師にも状態を報告し、指示を得ている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先の病院へ、早期に本人の情報を提供している。入院中は馴染みの入居者の方と共に面会に行き、本人には入院中の不安を取り除くように努め、状態の確認を行っている。グループホームでの生活が困難な場合はご家族の方と相談しながら、関連施設での対応も検討している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>主治医と連携を図り、可能なケアについて説明をし、本人・家族の意思を確認するようにしている。職員は看取りの研修会に参加している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変などに対応したマニュアルがあり、常に職員が見れるようにしている。応急手当などの訓練は行っていない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>日勤・夜勤それぞれ想定した避難訓練を入居者と共に毎月行っている。年に1度消防職員・家族の立ち会いのもと訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄の声掛けにしても、ご本人の誇りが傷付かないように、言葉遣いに気をつけている。カルテの管理や守秘義務についても職員間でも意識を高めるよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常のケアにおいても行動を無理強いない声かけや本人が選択できるような声掛けに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に好きな洋服や化粧品などを使用してもらう事で喜びを感じてもらえるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好きな洋服や化粧品などを使用してもらう事で喜びを感じてもらえるように支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑で採れた野菜を使用することで食事の楽しみを感じてもらっている。誕生日や行事等でも本人の食べたい物を何って作っている。それぞれに可能な調理や準備に参加してもらうよう声掛けをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の体調に応じた食事形態、食材を提供するようにしている。摂取量を確認し水分もおやつ時や入浴後等こまめに摂ってもらうようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアの声かけや介助をしている。週に2回はポリドントにて義歯洗浄をしている。口腔状態にあった道具を使用(スポンジ・舌下歯ブラシ)している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個の排泄パターンを知り、場合によっては排泄の声掛け・介助をすることで紙オムツ・パット使用を減らすように心掛けている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘傾向の方には特に水分摂取や牛乳の飲用を促している。又散歩や体操への参加してもらい楽しんで体を動かす事が出来るように心掛けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日入浴の介助を行っている。時間は10時～16時頃としているが希望を聞きながら入浴の声掛けをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>法人理念についての勉強会を行い、自分達の言葉で表したケア目標を掲げ、意識している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方されている薬の個別一覧表があり変更した時などもその状況をみんなで把握している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>出来る事は無理なく行ってもらいレクや外出なども考え毎日の生活の中に役割や生きがいを感じて頂けるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>希望があればそれにそえるように努めて家族の方などの協力も得て支援している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>財布の所持は本人の希望と家族の了解があれば行っており使用する際は見守り・声掛けを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご自分で携帯を持っておられる方もいるがその他の方は手紙などで御様子をお伝えている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングなどで季節感あるものを飾ったり、写真等で楽しんで頂けるようにしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファや長椅子などを置き1人になったり気の合った方とおしゃべりできるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使いなれた物を持って来てもらい安心感をえられるようにしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>人に尋ねることなく自らでわかりやすいようにトイレの場所に札を付けている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム南観音ひまわり

作成日 平成25年10月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	プラン作成のカンファレンスに家族の参加が少ない。	プラン作成において家族の参加を促し、よりよいプラン作りに努める。	ケアプラン説明時に具体的な取り組みについて詳しく伝え家族参加を積極的にお願ひする。	12ヶ月以内
2	4	運営推進会議に特定の家族ばかりの参加になっている。	特定の家族様ばかりでなく他の家族様にも参加していただけるように取り組む。	面会時、家族会等で運営推進会議の趣旨等を再度、説明し参加をお願ひする。開催日を変更し参加しやすい環境を整える。	12ヶ月以内
3	35				
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。